

# 白藍塾オリジナル

## 2012入試小論文分析&解答のヒント

2012年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

### ●慶応・経済学部

例年通り、設問は二つだが、いずれも説明問題となっている。これは、近年では2010年度と同じパターン。ただし、2010年度と違って、知識よりも課題文をしっかりと読み、その内容を手際よく整理する能力が求められている。

課題文は、有名な物理学者が、学生の行った「霜柱の研究」を紹介したものだ。第一期と第二期に分けられ、第一期では自然状態の霜柱について、第二期では人工的に作られた霜柱についての研究の様子がくわしく説明されている。

設問Aの(1)は、第二期の研究の実験内容とその結果を、行われた順番に説明する問題。課題文に書いてあることを、順を追って整理すればそれでよいはずだ。「土を入れた木箱の上にドライアイスを入れた箱を置いて冷やすと(実験内容)、霜柱ができることを確かめた(その結果)」などのように、実験内容とその結果とをセットではっきりと示すのを忘れないこと。

(2)は、「この研究で、最終的に明らかになったこと」を書く問題だが、第二期の研究は、要は「霜柱ができる条件は何か」を研究している点に注意しよう。課題文の最後の四段落を読めば、霜柱ができるのは関東平野の赤土で、しかも「粒子が細かい」「表面に凹凸がある」という二つの条件が必要であることがわかる。それらを字数に合わせてまとめればよい。

設問Bは、「この課題文を通して、著者が最も伝えたかったこと」を説明する問題。これは、最初の段落と、第二段落の「その無邪気なそして純粋な気持ちが尊いのであって、良い科学的の研究をするにはそのような気持が一番大切」という部分、そして第四段落の「何か思い付いたことがあったら、億劫がらずに『ちょっとやってみる』ということが大切」という部分にほぼ尽くされている。書き方としては、基本型Aを使って、最初に「科

学の研究で最も重要なのは、専門的な知識よりも、現象への純粋な興味と直観的な推理』ということを示した上で、その内容をもう少しくわしく説明するといいただろう。

例年に比べても、課題文の内容も設問内容もかなり易しいほうだろう。課題文のポイントをきちんと整理して、字数に合わせてまとめる力があれば、十分対応できるはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>